



ななほ

市民の友

第676号 毎月1回発行
2007年(平成19年)

5月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 (株)近代美術

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2007(平成19)年3月末現在	
総人口	314,920 (1,982)
男	151,980 (1,063)
女	162,940 (919)
世帯数	129,789 (1,162)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	93,047
真和志	105,052
首 里	58,001
小 緑	56,838

桃井恒和代表取締役社長(左から二人目)らに施設の説明をする翁長市長



球春は沖縄・那覇から

巨人軍にキャンプ要請

寒非桜の咲く2月、沖縄には、春季キャンプのためプロ野球8球団が集います。温暖な気候はスポーツ選手の体づくりに適しており、沖縄が誇るべき「オンリーワン」だと思います。ただ、那覇市でキャンプを張る球団は無く、残念に感じていたのは私一人ではないと思います。

そのような中、奥武山野球場が平成22年に市営の本格的野球場として生まれ変わることになります。これは、県、防衛施設局など多くの関係機関のご協力の賜物です。

昔も今も子どもたちにとって、プロ野球選手は憧れの的です。私も王長嶋選手の一挙手一投足に目を奪われたものです。

また、8球団の沖縄キャンプの経済効果が50億円余と試算されており、人気の高い巨人軍であれば、さらに大きな経済効果が期待できます。そのようなことも踏まえ、このたび、読売巨人軍の「那覇キャンプ」誘致のため、去る3月23日に正式に要請を行いました。

市や県の活性化と、明日を担う子どもたちの大きな夢のためにも、「那覇キャンプ」の実現を市民とともに取り組んでいきたいと思っています。

「球春は沖縄から」「球春は那覇から」というキャッチフレーズが定着する日も遠いことではないかもしれません。

那覇市長 翁長雄志

主な紙面

- 2 助成金を活用してまちづくり
- 3 那覇市立病院は地方独立行政法人への移行を目指します
- 4 人・自然・地球にやさしい環境
- 5 共生都市なはをめざして
- 6 情報PACK
- 7

協働のまちづくり 那覇を紡ぐ

23



「協働」とは、まちづくりのために、市民・事業者・市民団体・行政などが、それぞれの特性を発揮しながら協力しあうことです。

現在、市内では「NPO法人地域学校支援研究フォーラム」と教育支援ボランティア「ゆづり会」の2つの団体をはじめ、多くの方々が、小学校や幼稚園で、児童生徒の学習や心のケアを支援するボランティアとして活動しています。

3月14日には、久茂地小学校で「ゆづり会」の活動報告と活動状況の視察が行われました。

同会は、教職を退いたみなさんが、教員としての長年の経験を活かし、ボランティアで市内の小学校児童生徒の学習支援を行うことを目的に結成されたもので、昨年の11月には、市との間で学校教育支援ボランティア協定を結んでいます。

活動報告会で、翁長市長

は「ボランティアで子どもたちの学習支援、地域貢献に活躍されている姿は、私の掲げる『協働のまちづくり』の原点です。今後とも更なる協働への取り組みに力を貸して下さい」と会員のみなさんを激励しました。

また、学習支援ボランティアの上運天洋子さんは「ぜんそくやアトピーなどの理由で休みが多いお子さんには、なんら能力には問題ありません。私たちは、そういった子どもたち個々に応じた学習支援を行い、一人ひとりの子ども

支援で子どもたちを温かく育む

この後、翁長市長や伊藝美智子助役(取材当時)、桃原致上教育長らが、視察を行い、学習支援の様子を見て回りました。

学習支援ボランティアのみなさんは、子どもたちが生き生きと楽しく学ぶことができるように、一人ひとりのペースに合わせ、細やかな少人数指導を行っており、子どもたちからは「分かりやすい!」「ずっと続けてほしい!」といった要望があったそうです。

学習支援ボランティアは、未来の那覇を担う子どもたちを、温かく支援する新しい協働の形です。



学習支援の様子を視察する伊藝美智子助役(右)と翁長市長。